

家庭教育支援チーム・リーダー養成講座② 実施レポート

日時：令和元年8月20日（火）10時～15時

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂

参加者：47名（うち市町村等から39名）

今回は「子どもを取り巻く現代的課題や現状について理解しよう」というテーマで開催しました。現代的課題の切り口として、以前から話題になっている特別支援教育の視点とインターネット利用を取り上げました。参加者は現状や背景に触れることを通じて、課題の本質を理解し、保護者への働きかけ方等を学びました。

【午前の部】

秋田きらり支援学校の教諭（兼）教育専門監の**島津 憲司**氏を講師に迎え、「特別支援教育の視点から考える家庭教育支援～保護者の心情に寄り添った関係づくりのために～」と題して、保護者の心情の理解と支援の手法や、面談のポイント等について話していただきました。島津氏は、クレームがあったという仮のケースを取り上げ、保護者の苦しい状況や本心と、支援者の関わり方との気持ちの流れを図示して、分かりやすく整理してくれました。

- ・保護者と仲よくしようとするのが必ずしも寄り添うことと同等ではないこと
- ・「伝える」と「伝わる」は違うことで、自分の伝え方を振り返ってみること
- ・チームで支援すること
- ・よくないことを伝えるためには信頼関係が必要で、それを築くポイントとして、まずは共通点探しから始めること

さらに参加者は、演習を通じて、話しやすい状況づくりや面談のポイントを実感し、理解することができました。島津氏の優しい話し方と捉え方・眼差しに触れ、参加者は社会や自分を顧みて、保護者の心を支える言葉掛けや態度を見つめ直していました。



【午後の部】



午後の部では、県が進める「大人が支える！インターネットセキュリティ推進事業」でも御助言いただいている、子どもたちのインターネット利用について考える研究会（子どもネット研）事務局の**高橋 大洋**氏が、「ネット時代における家庭教育支援のあり方」と題して講話をされました。始めに、現在は子どものインターネットデビューが低年齢化しており、写真や動画、ゲームといった小さな子どもにも人気のコンテンツが充実しているといった背景や利用状況について触れ、ネット利用トラブルの事例や、発信・参加型の利用に欠かせない知識とよくある誤解について説明しました。次に、乳幼児

期のスマホ利用習慣がその子の将来を左右することをおさえ、「テレビ電話等、生きている相手とのやりとりをする以外、スマホを使わせるのは早くても3歳以降」といった、デビュー期に最低限守らせたいポイントを示しました。最後に、保護者への期待と働きかけ方について、「信頼できる他者の行動や成功が鍵となる」ことを強調し、われわれ大人が「子どもとともに学び続ける」ことが重要であるとまとめました。保護者自身にとって欠かせない知識や支援者として必要なポイントが明確に示され、参加者は、ネットに「少し詳しい」地域の人として、保護者を支えられるようになることに意欲をもち、到達目標を共有することができました。

【参加者の声】（抜粋）

- ・内容は特別支援教育の視点からだが、子育ての親たち、全てに当てはまる課題であり、日常の生活に親子で触れあう大切さを教えていただいた。
- ・子どものことを考えることは、保護者の心情をもとに考えることなのだ、今さらながら認識させられた。
- ・長時間利用が及ぼす健康や学習への悪影響や、デビュー期に最低限守りたいポイントが参考になった。睡眠等の必要な時間の確保が重要であること等を、保護者に理解してもらうことが必要であると思った。
- ・ネットに「少し詳しい大人」を増やすために自分も正しい知識を付けていきたい。